

在巴里市ダルグローズのリトミック

研究所參觀

宇佐美 敬

ダルグローズ氏リトミックは今日歐米の幼稚園小學校高等女學校更にカレッヂの學生に教授され可なり普及してゐる。巴里には、ダルグローズ氏が時々出張され直接教授される研究所のあることを聞いて居つたので、其處に數日通つて一通り見學を續けた。他に小規模ではあるが數人或は十數人の幼稚園小學校の初年級兒を集め一週二回位午後一時間位教授して居るところも所々にあるといふ事で、當時私が止宿してゐた家のお子さんがゆかれるので二度ばかり一緒にいつて見學した。私自身リトミックを研究してゐないのであるが、自分

の幼稚園では小林氏の下で研究し氏からたしかにものになつたといはれてゐる教官が居つて、數年來實際にやつて居り、自分も非常に興味を持ち且つ大に價値あるものと信じて居るので、至る所で採用の有無をきき、またもともとて幼児小學校にさせて見せて貰つたのである。まづ研究所に於て實際にしてゐるのを見たところを幾分は參考にもなるかと書いて見ることにする。勿論リトミックの教育的價値或は原理といふやうな點には種々説をなす人もあると思ふが、それはしばらくおき、それが體育の方から、また音樂教育の點からの

價値を認められてゐる事は勿論であるが、子供の創造慾を満たし、その力を養ふ點に於て、それと一面その結果として小供がすなほになるといふ事は、實際家から聞く一々の證言であつた。これは私自身もまた自分の幼稚園で行つて認めた點であるので愉快に思つたことである。それに如何に子供がいさ／＼として存分のポーズを作つて喜んでゐる所などを見、また緊張してピアノ或は先生の合圖に注意を集注する姿を見て其處に可なり大きな教育がなされるやうに思つた事である。

さてその巴里市の研究所では毎日午後幾つかの組にわかれて三時から六時まで教授する。三時から四時まで四歳—五歳兒のを見る。四分音符で普通進行、アクセント、まつすぐに歩みがしつかりと嬉しげな足どり、うらやましいと思つて見る。

拍子一二三四、一二三四、と腕をあげる普通のもの、次にピアノの傍に集め音程の稽古まだドレミ

を始めて居らぬらしいアン ドーウ トロハ 下から手で梯子をこしらへながら發聲し上からは逆数がまだ困難なるべしラララ・デやはり梯子をこしらへる。音程練習のあとギャロツプ、隨意にといはれ皆喜んでとびまわる。ピアノは音階を基調にして弾く、ピアノがとまつたときいそぎ自分の順位につく、右を一人づゝ或は幾人かづゝ全體といふ風に變化をつけて約一時間續ける。

四時—五時 六歳兒

強き歩みで始を強弱緩急四分音符三拍子でいつて合圖で一つ八分音符小鳥のやうにと先生がいはれると一二三四で上左右で拍子、スキップでいそぎ自分の位置にかへる。

拍子 おじぎ(一二三)と前、左、右)

今まで各別々に練習したものを總合して更に練習する。

一、前進 廻轉(強い音でくるりと後むき行進)

二、八分音符でピアノの續く間。

三、小鳥一回。

四、スキップピアノのつゞく間。

五、拍子 次の合圖のあるまで

六、おじぎ一回右を繰りかへす間に間違つたものは順次にぬけて自分の席にもどる中々面白い。

次にピアノの傍に集められて

先生がやさしい音程で簡単な曲をひいて子供に聞かせる子供の一人が笛の音のやうに口をすぼめて發聲する。次に他の一人がヴァイオリンをひく姿勢をとると先生はそれにふさわしい曲をひかれる、或はピアノののつてゐるブラットホームをドドンといつた調子に勝手な拍子で子供が打つて如何にも太鼓の音らしい音でその拍子で先生がピアノをひいてきかせるすると、他の子供が皆でその拍子でピアノと一緒に板を打つ、やがてその中の一人がディレクターになるその人の自由で笛を


吹く支那をしながら勝手な曲を歌ふ先生はその通りの音程調子をピアノで弾かれる他の子供全體がそれを眞似をする。太鼓の人は床をドンドンと拍子をつけて打つ先生はその通りをピアノでひかれる、その都度子供に批評させる子供は一つせいにトレビアン(お上手)といふ、次に全體を二人三人づゝにわけ初めに約束して笛の時はどの組ヴァイオリンはどの組太鼓はどの組とさめてピアノの音色と調子をきいて順次に眞似をしてゆくが、それが如何にも面白く可なり長くつゞく。

次に普通行進。先生がピアノをやめられるその時の音を發聲し最初約束の姿勢をとる、例へばソの音でとまると子供はひざまづいて兩腕を前にのばし「サーンク」を發聲する誤るものもある。高いドの時は上にのばし、下の時は腕を下に下げる、大ていドミソドの三和音だけであつた。

次に仰臥し膝を立て、アン、ドーウ、二拍子で

膝をのびしたり立てたり腕は上横下と三拍子最初は別々に次に膝と腕とをまちがへないやうに、

最初から非常に愉快にしてゐて更に疲勞の色が見えぬ。

次に八歳児の組中に二三人十歳位のものも見える、この組になると可なりむづかしく、又子供の緊張もなみ大ていでない。書き記しても餘りご參考にはならぬかと思ふがざつと記すと、通常歩、かけ足、スキップ交互に可なり長くこれ等の歩き方の練習をする。そのあとで  できりかへし子供の一人に右の通りに板書させる。

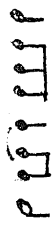
簡単なメロデーで二小節又は四小節をひき瞑目してきかせる。あとでいはせる。

二人手を連ねて $\frac{4}{4}$ で行進中先生の合圖で廻轉手をつなぎかへて拍子をとりの行進、次に後列の二人が一小節間に(八分音符にかへ)最前列に代り二人手をつないで門を作り次の一小節で他の子

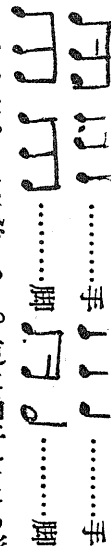
供がその門をくぐりぬける。

この組になると十六分音符の歩き方もする。

次に十三四歳の女兒の組など中々むづかしい拍子の練習であつたが四拍子で歩いてゐて合圖でとまり、更に次の拍子につゞく一拍とまることもあるし二拍のこともある。

この位の子供になると先生のピアノを聞いて次のやうな譜を板書する 

次に手と足と別の拍子でゆく合圖でとまり更につゞける非常に複雑でむづかしい、例へば



といつたやうな風である。更に拍子をとる形は生徒の隨意にさせる時先生がまづこんな風にとやつて見せられるするとピアノに合せて相當複雑な曲を聞きながら思ひ／＼に種々の形に腕と上半身とを以て拍子をとる、それが實に美しい立派な姿勢

である、基本練習が此處までゆけば舞踊にはいるのもたやすいと思つた、更に十五六歳以上になると普通行進をきれいにと切りに歩き方をする。其姿態ことに前進から後進に移るとき身體の勢を先きに次の姿勢に移すことをやかましく練習する。

— p. p. p. — ……この拍子を繰りかへす間に各自が種々の姿態をとるこの邊になると舞踊である。

以上を數日間可なり夕ぐれおそくまで見學し自分としては非常に面白くどうやらリトミックの味がわかつたやうに思つたのであるが、既に研究して居られる方には興味も少なく、また、まだリトミックに一寸もふれて居られぬ方々にはご了解のなり難い點もあると思ふが、雜誌の方からのよたのまれもあり、少し詳しく記した次第である。二十歳前後の先生になる爲めの生徒の授業も見たが此處に略す。その後英國アメリカの有名な幼稚園

で見た面白いと思つたリトミックの實際に就てはまたその都度記したいと思ふ。

新刊紹介

小學手工全集 上卷

本全集は東京市小學校手工教師の共著になるもので、幼稚園、小學校の先生及び子供の參考用に手工の各種を集録せんとするもので、先月上卷が出ました。折紙六十一種、組紙十五種、切抜、貼紙、小捻、各種紙細工が収めてありますが、全巻色刷圖解の丁寧な説明であります。(發行所、淺草區南元町四十一番地、渡邊草英。定價一圓)